

12月18日（月）〈校長から、生徒の皆さんや本校に関心のある方に、折々に伝えたいことを発信します〉

「評価する」ということ＝自分が主体的に参加する、ということ

山茶花や紅葉
が美しいなあ



さて、2学期が残り1週間となった。期末考査の答案もほとんど手元に戻ってきたのではないだろうか。教科担当の先生からの解説を受けて、自分で振り返りを行ったかな？できるようになる、わかるようになる、点数や成績をあげる、そのためには、「やりっぱなし」「ほったらかし」にしないことが最も大切だ。テストが戻ってきて、点数で一喜一憂するのは構わない。だが、点数は結果を表すただの数字であって、大切な意味があるのは「内容」の方だ。自分は、何ができて何ができなかったのか、それを自分自身で把握すること、そして対策を立てること、これが勉強するコツだ。対策方法については、ぜひ教科担当の先生に具体的に相談してみよう。成績は、生徒諸君の学習状況について、担当する先生方が責任を持って「評価」して決める。先生方の責任の重さを想像してみてほしい。なぜなら、それは君たちの人生に影響することだからだ。



「授業評価アンケート」と「学校評価アンケート」

ところで、今週は、学年ごとにHRの時間を使って、生徒諸君に「授業評価アンケート」と「学校評価アンケート」という2種類のアンケートに協力してもらう。アンケートは、意見聴取の方法の一つで、よく用いられることがある。今回、そのどちらにも、「評価」という言葉が含まれていることに注目したい。単純に、「授業アンケート」や「学校アンケート」という題名ではないことに重要な意味が含まれている。これらのアンケートは、それぞれ、授業についてと大森高校そのものについて、君たちに「評価」を問うている。さあ、君たちは責任を持って客観的に「評価」することができるか？

あるものごとを「評価する」ということは、自分自身がそのことに主体的に参加する、つまり、他人事ではなく、自分事として関わる、ということだ。いい授業は、その担当の先生だけが頑張って作り上げるものではなく、所属している生徒の主体的な関わりがあってこそ成立する。授業は先生から一方的に与えられるものではなく、先生と生徒、生徒と生徒の、相互のやりとりで深まっていく。ノートを取る、プリントに記入する、質問する、発言する、話し合いをする、宿題をやる…etc. 君自身は主体的に関わってきたらどうか？

RPDCAサイクル＝リサーチ、プラン、ドウ、チェック、アクション

「RPDCAサイクル」とは、ものごとを計画したり進行したりする際に用いる考え方を表している。先ほどのふたつのアンケートは、今後の大森高校の授業や学校運営（ドウ）について、リサーチとチェックとを兼ねて行う。このリサーチとチェックに基づいて、改善が行われたり（アクション）次年度の計画（プラン）が練られたりする。主体的であることと客観的であることは、全く矛盾しない。だが、単純な「好き嫌い」は、客観的ではないので有効な評価とならない。

さあ、校長として、生徒諸君の主体的かつ客観的で前向きな評価を期待している。共に、これからの大森高校を作っていこう。

